

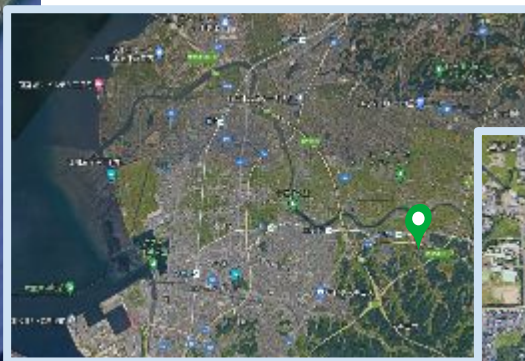
日本財団 災害対策拠点プロジェクト

日本財団は自治体と連携し、災害対策基本法に定める「災害予防」、「災害応急対策」、「災害復旧」の切れ目ない実践モデルの構築を目指し、地域防災計画をはじめとした災害対策の充実と公益の増進に資することを目的に、災害対策拠点プロジェクトを実施します。

自然災害の発生頻度が高まる中、災害発生前から公助を補う民間共助の枠組みを準備し、発災時には迅速に被災地を支援する取組みです。



千葉南部災害支援センター



木更津市より市有地利用等の協力を得て、木更津市笹子589-3(塵芥処理場跡地)に拠点を設置。千葉南部災害支援センターと協同で、拠点

整備や周辺施設を活用した研修開催などのプロジェクトを推進中です。

研修・訓練 (平時)

平時は、災害支援NPOや看護福祉専門職、企業や自治体職員、学生、住民が集う研修拠点。座学、実技、グループワーク研修で災害支援人材を増やす。

◇専門技術を実践形式で学ぶ

浸水被害家屋の床壁の再生(応急復旧)、地震や台風で被害を受けた屋根補修(高所作業)、土砂撤去や倒壊ブロック塀除去のための小型重機操作、倒木や流木除去のためのチェーンソー操作

◇災害様態別特徴、法制度、自治体との連携を学ぶ

水害、地震、台風等の様態別の災害対策、災害関連法制度(災害救助法、被災者生活再建支援法等)、労働安全衛生法制度(小型重機、高所作業、チェーンソー等)、災害関連の自治体事務や三者連携(行政、社協、NPOの連携)

◇多様な職種、支援者が集い学び合う

福祉・看護・建設・土木等の専門職による業種横断型、避難生活支援・子どもの居場所づくり・孤立防止等の重層的支援、民間団体(NPO等)と自治体組織・社会福祉協議会による連携



2022年12月から2023年3月に佐賀県で開催した研修風景

備蓄 (平時) と活用 (発災時)

発災時に使う資機材・物資を、平時から備蓄しておく拠点。平時は資機材を研修で使い、発災時は災害支援NPOが活用する。

地元・近隣の被災地を支援 (発災時)

起こりうる地元・近隣の自然災害に備える拠点。発災時は情報共有、資機材補給、宿泊スペース等、災害支援NPOが活用する。

日本財団 災害対策拠点プロジェクト



- 研修・訓練
- 備蓄と活用
- 被災地支援



平時・発災時ともに連携のハブとなり、平時は災害支援人材を増やし、発災時は被災地を迅速に支援する。



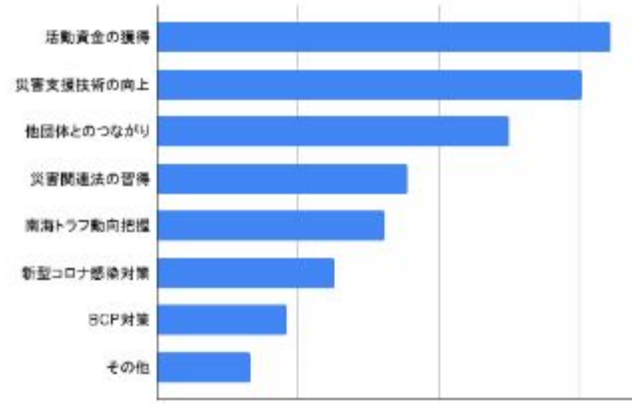
平時から重機や資機材を揃え、発災に備える

災害対策拠点に人が集う

家屋応急復旧や小型重機操作等の研修・訓練を実施

TOPIC①: 災害支援団体向けアンケート

2021年12月に、熊本地震以降の日本財団支援事業実施団体を対象に災害対策に関するアンケートを実施。



「技術力の向上」や「団体間の連携」への興味関心が「活動資金獲得」とともに高い(回答:247団体)

TOPIC②: 近日実施予定の講座・講習

- ①山岳ガイドに学ぶロープワーク(野外実践編)
2024/9/23(月・祝)13:30-17:00
千葉南部災害支援センター・笹子フィールド(※)
- ②チェーンソーによる環境整備(実技講習)
2024/9/28(土)09:00-12:00
千葉南部災害支援センター・笹子フィールド(※)
- ③写真洗浄講習会(座学と実技)
2024/9/28(土)13:00-16:30
木更津市東清公民館

※千葉南部災害支援センター
・笹子フィールド
木更津市笹子589-3



【研修詳細・申込】別添チラシをご覧ください